



みどり

6月号
令和5年5月31日
調布市立緑ヶ丘小学校
校長 鳥居 圭

E-mail
midorigaoka-sho@chofu-schools.jp

「何ができるか」を考え、行動できる人に！

副校長 三瓶 邦吉

5月12日（金）、今年度3度目の避難訓練を実施しました。地震発生の後、給食室からの出火の想定でした。この日は、調布消防署員の方々が来校されておりましたので、避難訓練の評価・助言をいただきました。本校児童の「お・か・し・も」の避難について高い評価をいただきました。署長さんからいただいたお話で強く心に残ったことは、実際に災害が起こった時に、「お・か・し・も・て」の「て」を追加し、「て」を意識した行動をとってほしいということでした。「て」は「手伝う」ことです。下級生が困っていたら上級生が世話をしたり助けたりする行動をとってほしいということです。本校の児童への期待の表れだと感じました。常日頃から上学年が下学年に「何ができるか」を意識し、考え、行動する上学年です。災害時においても、「手伝う」「助ける」ことのできる子供たちであってほしいと願います。

4月に実施しました調布市防災教育の日には、「防災の準備と対応」のテーマのもと、国士舘大学の浅倉 大地様より第5・6学年を対象に災害が起きた時の避難所での過ごし方のポイントについて教えていただきました。避難所で大切な「T（トイレ）・K（食事）・B（ベッド）」について理解を深め、後半は、ルールや決まりのない避難所のイラストマップを見ながら、問題点や改善点を話し合うグループワークを行いました。その中では、「T・K・B」の視点に着目して、問題点をどのように改善していくかを当事者意識に立って意見を出し合いました。この学習で学んだことの一つに、避難所では、どのような準備や対応が必要なのかを考える際に、「平等」という視点ではなく「公平」という視点が大事であるということ学んだことです。

「平等」と「公平」について例えると、背の高い人、中ぐらいの人、低い人がいたとします。この3人が塀の向こうの景色を観るために踏台を用意します。「平等」の場合、同じ高さの踏み台が3人に与えられます。当然、見える景色は違います。一方、「公平」の場合は、背の高さに合わせて、違う高さの踏み台が与えられます。3人とも見える景色が同じになります。「平等」は、スタートラインが一緒で、「公平」はゴールラインが一緒というイメージになるかと思います。

避難所の場合を考えてみます。収容人数を越えた人が来場された場合には、どの人にも平等に行き渡らせることが叶わないことが生じます。どなたを優先するかを考える必要があります。避難所ではT（トイレ）、K（食事）、B（ベッド）を核として、避難所の状況把握に努めます。今ある現状や物資の分量等から、避難所の環境をどのように整えるかを考えなければなりません。また、より必要とされる方々を選んだり優先順位を考えたりして、スムーズに誘導し、安心していただけるようにします。場合によっては長期間になることも想定されることを鑑み、対処していく必要があります。子どもたちが、実際の避難所にいる当事者として考え、どのように行動していったらよいのかを考えることの重要性を今回、話し合いを通して学んだことです。

5・6年生の高学年が、「公平」という視点で避難所での行動のあり方について考え、学んだことは、将来に生かしていけるものと確信します。「平等」は与えられやすいですが、「公平」という考えに立つことはなかなかできるものではありません。しかし、どの人も努力し手に入れていきたいものです。